

はこんなことがやりたい”という思いの部分に目を向けなければいけないということを感じました。

近年、地域移行という考えが広まり、GH・CH数が増加しています。それ自体はとても大きいことですが、私たちはどこかでそのことを決定打として見ている部分があるのではないかと思います。障がい者であればGHという選択肢があり得る。では支援者はどうだろうか、“もし自分なら住みたいと思うだろうか?”という疑問が生じる。GHはもっと進化するべきで、我々も含めて“お金を払ってでも住みたい”と思える場所を作ること目標にしていかなければいけないと感じました。そして大切なのは、GHであってもそうでなくても、障がい者であってもそうでなくても、全ての人々の暮らしを元に、“ここにいれば楽しい。元気になる。夢を語れる。”という「生きる力を奪わない暮らし」を求めることであると思います。さらに、「利用者と支援者」である前に「人と人」であること、同じ市民として、同じ生活に悩んでいる者として関わっていくことを忘れてはいけないと感じました。

2日目は『地域の中でず〜っと暮らす(生きていくためのネットワーク)』の内容で発表が行われました。

最初は(社福)京都ライフサポート協会の高瀬謙一氏から「拠点的CHの役割と可能性」についての内容でした。現在GH・CHの数は増加し、利用者は軽度の方が多く、障害程度区分4~6の方が占める割合は低いということでした。高瀬氏からは重度の方々から暮らすCHの実践紹介がありました。居住支援は全ての支援の基本となり、人に制度を合わせるといった視点を持たなければいけないというお話しが印象的でした。

次は(社福)ひまわりの会の別府美絵氏から「ホームヘルプの実際」についての内容でした。地域で安心して暮らすために居宅介護事業(ホームヘルプ事業)は、切っても切り離せないものであると感じました。

最後は(社福)高知県知的障害者育成会の葛目博子氏から「セクシュアリティ講座への取り組み」についての内容でした。出会い系サイトを通じて複数の男性と関わった末の妊娠。そして墮胎を経験された女性や、交際相手との間に子どもができ、結婚に至った女性の事例を挙げられ、セクシュアリティ講座を行う必要性などを話されていました。講座を実施するにあたっては、当初、内容から尻込みしたが正しい知識を伝えることの方が大切であると感じたと話されていました。また、楽しみや快樂には責任が伴うということも必要だと言われていました。性に関して伝える事は難しく、伝えても実際に活かされていない

と意味がないように思います。私たちは伝えるだけでなく、性に関しての悩み、興味、不安に対して一緒に寄り添い、考えられる存在であるべきだと感じました。

3つの発表を聞いて感じたことは、GH・CHとは単に地域の中にあれば良いというものではないということです。地域の中にハコがある、それだけでは何の意味もありません。単に地域の中で暮らしていくのではなく、“暮らしの豊かさ”を求めていかなければならないのだと思います。豊かな暮らしの実現には“連帯・連携”が欠かせないのだと改めて感じました。

わたし自身もどこかでグループホーム・ケアホームは終着点と捉えている部分があり、日々の暮らしの出来ごとにいっぱいになりがちですが、そこで終わるのではなく、同じ市民としてもっともっと広い視点で捉えていかなければならないと感じました。

《レクリエーション事業・くれよんについて》 料理教室

- ・日 時：9月8日(日) 10:30~13:30
- ・場 所：クレオ大阪南 調理室
- ・参加費：1名あたり1,000円、会員外1,500円
- ・持ち物：エプロン、三角巾、タオル等
- ・定 員：32名
- ・申込締切：9月4日(水) (定員になり次第締切)

ボウリング教室

- ・日 時：9月28日(土)
13:00~14:30
- ・場 所：桜橋ボウル
- ・定 員：30名
- ・参加費：1,000円(貸靴代含む)
- ・申込締切：9月26日(木) (定員になり次第締切)

大阪市育成会会員だより

勉強会のお知らせ

- ・日 時：9月19日(木) 10:00~12:00
- ・場 所：社会福祉センター 301会議室
- ・テーマ：「高齢化の中での親の心構え」
- ・講 師：全日本手をつなぐ育成会
理事長 久保 厚子 氏

《9月部会等日程案内》

部会名	日 時	会議室
支部連絡会	9月19日(木) 13:00	301